



1_「荻外荘」と復原整備事業の概要

2_「荻外荘」の基礎知識

2-1_「荻外荘」建設に至る背景

2-2_「荻外荘」の場所的価値

2-3_「荻外荘」の建築的価値

2-4_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5_「荻外荘」に関する新発見

3_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2_軸組の復原

3-3_内装の再現(客間が主)

3-4_復原の社会的意義

4_「荻外荘」の復原整備工事

4-1_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3_復原整備工事における製作物について

1_テーブルクロス シャトル織機による正絹織物の復原（京都府京丹後市）



正絹織物サンプル

2_螺鈿家具 ヤコウガイ嵌入・摺漆仕上による家具の復原（東京都大田区）



創建時の応接間における螺鈿家具

著作権の都合上、非表示としております

ヤコウガイ嵌入・摺漆仕上前の家具

3_敷瓦 色差測定

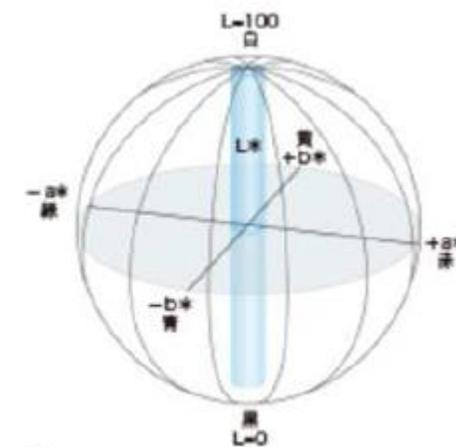


図1
※地軸L*が明度を表す

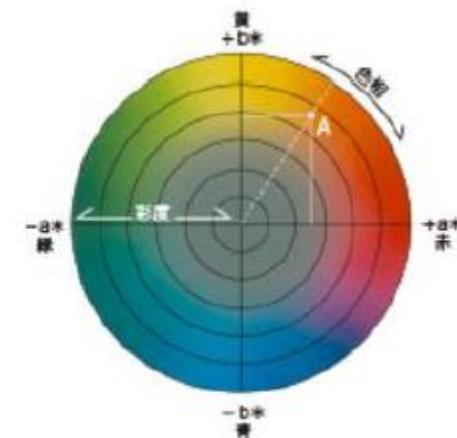


図2
※中心からの距離が彩度を表す

3_敷瓦 (愛知県常滑市)



現存品



復原品サンプル

1_「荻外荘」と復原整備事業の概要

2_「荻外荘」の基礎知識

2-1_「荻外荘」建設に至る背景

2-2_「荻外荘」の場所的価値

2-3_「荻外荘」の建築的価値

2-4_創建時の「荻外荘」にみる建築的特徴

2-5_「荻外荘」に関する新発見

3_「荻外荘」の復原整備に関する考え方

3-1_修理の方法と復原/復元の考え方

3-2_軸組の復原

3-3_内装の再現(客間が主)

3-4_復原の社会的意義

4_「荻外荘」の復原整備工事

4-1_豊島区での解体工事と部材の保管

4-2_復原整備工事のプロセスと各種工事内容

4-3_復原整備工事における製作物について

現在の応接間



復原整備事業の社会的意義

- ・ 復原整備によって場所や建築がもつ記憶を人々が体験できるように
なり、体験を通じて、より豊かな日常を実現していくことができる
- ・ 歴史的な建物を後世に遺していくための伝統技術の継承

おわりに_公開後の「荻外荘」を見据えて

「ネガティブ・ケイパビリティ」

- ・ どうにも答えの出ない、どうにも対処のしようのない事態に耐える能力
- ・ 性急に証明や理由を求めずに、不確かさや不思議さ、
懐疑の中にいることができる能力

「ネガティブ・ケイパビリティ」を最後に紹介したことの意味

「ネガティブ・ケイパビリティ」は、ジョン・キーツという18世紀末から19世紀初頭に活動したイギリス・ロマン主義の詩人が自身が敬愛していたシェイクスピアが有していた能力を評して使ったものです。

この言葉との出会いは、故鈴木博之先生（建築史家であり東京駅の保存にも尽力された）の『建築雑誌』2007年5月号「ひずみの少ない社会へ」という論考で、「ネガティブ・フィードバック」という言葉と共に建築史という学問の存在意義を示すものとして紹介された文章を読んだことが最初でした。私が2019年にチェコから日本に帰国して、歴史的建造物の保存・再生・活用を専門にし始めてから、いつもこの言葉が頭にあります。

また2022年から東京大学大学院の博士課程に進学した際に、藤井輝夫総長の東大大学院入学式での式辞であらためてこの言葉を耳にしました。時間をかけて理解することの意義を学生に向けて伝えるのに着目した言葉として引用されていました。

荻外荘は本年10月に竣工し、12月から公開されます。オリジナルの建築にも価値があり、また歴史的な場所としても価値があるこの荻外荘に、新たな歴史が刻まれることになるわけです。

荻窪の地にこの「荻外荘」という歴史的な建物があることの意義を時間をかけて皆様がそれぞれに考えながら、よりよい意義を見出していけるように関りを持ち続けていただけると荻外荘という建物もしあわせでしょうし、みなさまのしあわせにも通じるのではないかと考え、竣工までまだ時間がありますが、講演の最後にこの言葉をご紹介させて頂きました。5年に渡る講演の機会を与えてくださった杉並区様、また聴講して下さった皆様に心から感謝致します。公開を楽しみにして頂ければ幸いです。